



発行所 1丁目29番8号  
 蒲田区蒲田(3732)7821(代)  
 東京都大田区蒲田工業協同組合  
 電話(3732)7821(代)組員会  
 蒲田工業集誌編集委員会  
 機関小印刷所  
 東京都大田区中央8丁目5番1号  
 城南印刷工業株式会社

# 年頭ご挨拶



蒲田工業協同組合

理事長 小林章彦



あけましておめでとうございます。昨年を振り返って感じることは、会員の組合員としての交流が盛んだったことです。

七月には大田区長と一緒に、スイス・フランスの中小企業を視察に行った会員がおりました。このことは十一

月の大田区ブランド推進協議会交流会の挨拶の時に区長が触れておりました。

十二月には、会員である主催者がベントレーで出場したラリーに、名車アストンマーチン、スカイラインGTRを駆って、フェラーリ等と争いながら100kmの距離を良い成績で完走した

四名の会員がおりました。車に夢中になっていた高校時代にはポンドカーを運転できるなんて想像も出来なかったことです。

よく団体に加入することにメリットは？という人がおりますが、メリットを計算して加入する人ばかりでは、会の価値は向上しません。会員として他の団体と交流することによって、豊かな人生が開けて来るとしよう。

ある異業種交流会で十二月の例会に、ジャズバンドを招いて食事会をいたしました。他の団体にもお声掛け致しましたが、ある業界の東京都の理事長は快諾して、事務局までが参加となりました。大田区のある団体は不参加でした。会のトップの判断が会員に予想できないような経験を与えることができ

ます。

又、組合を通じての損害保険では、保険料が半額になりました。

私は今年半ばまでの任期ですが、引き続き積極的に会合に参加して、情報を得るつもりです。会員の皆様も更に活動してください。入会してよかったです昨年を振り返り、今年も更に良い年になることを信じて。

## 謹賀新年



### 平成28年 元旦

## 日本人としての誇り

上智大学名誉教授

渡部昇一氏講話より



渡部昇一氏

新年おめでとうございます。

今、憲法改正問題なんかで色々と言われておりますが、本当の問題が意外と知られていないですね。

アメリカが最初に来た時は勿論、

### 目次

- 「年頭ご挨拶」 ①
- 「渡部先生講話」 ④
- 「組合員だより」 ⑤
- 「業務報告」「掲示板」 ⑤
- 「木鶏会々長のご挨拶」 ⑥
- 「木鶏会の活動」 ⑥
- 「年賀広告」 ⑧

ポツダム宣言を無視しまして、完全に統治しようとした訳です。ご存知のようにポツダム宣言は、無条件降伏なんかしているのではなくて、我々の条件は挙げた条件の中に陸、海、空軍の無条件降伏が有るだけであつて、日本政府の無条件降伏ではないのです。

ところがマッカーサーは全部武装化した後、トルーマンの命令で、日本の言うことは聞く必要が無いと命令が来ている訳です。ですから完全に日本を占領統治した訳です。

お金もドルにする、公用語も英語にする、法律も全部、裁判もアメリカ式にやる。そういうことだったのですが、それを聞いてびびくりしたのが重光さんで、大慌てで徹底的に抗議をしました。

そんなことをやったら、何時までたっても戦争は終わらないと言つたと云われておりますが、どのような言い方をしたかは文書には残っておりませんが、とにかく改心をさせたのです。それで、直接統治では無く、間接統治にしたのです。

アメリカ政府が日本政府を通じて統治をする。日本政府はアメリカ占領軍の言う通りにやる。そうしますと、アメリカの占領軍は、日本の政府に色々命令を出さなくてはならないのですが、命令の基本に成るものが必要だということになり、それを日本国憲法という形で作らせたのです。

ですから、作るにも憲法学者だけが集まつたわけでは無く、普通の秘書みたいな女性も集まつて、今の日本国憲法は一週間位で作つたのです。日本国憲法は、その性質において、間接統治をする事になつたアメリカ進駐軍の占領基本法なのです。間接統治ですからそういう事になります。

憲法の前文を見ただけで、ああ、これは普通の憲法では無いということが、直ぐに分かなければいけないのですが、しばしばその辺を無視する人がいます。

一番重要なところは、日本人の安全も、生存も、平和を愛する諸国、即ち外国に預けるということ。世界中のどこの憲法が、その国の国民の安全も生存も、命ですよ、外国に預けるといふ様なことを書いてある憲法が有りますか。預けていますから第9条には、もう戦争はしないと書いてあつて当たり前の話で、それは前文からくるのです。

ところが憲法を守れと云う人達は、9条だけを言つて平和だと言つているのです。只、アメリカの方は勿論、憲法の体裁を整えるために、天皇陛下には憲法発布に関する勅語を出させました。それによると、やはり天皇陛下は新しい憲法が平和のために、喜ばしいと言ふようなことをおっしゃつて居る訳です。これは、はっきりと云いますが、天皇は言わせられたのです。

言わなければ、当時の雰囲気としては、

皇室が潰されるかもしれないという恐れが有つたから天皇は恐らく涙を飲んで、あの憲法を嬉しいという様な主旨のことを云つて居る訳です。

ですから、あの憲法は憲法ではないと、憲法学者は言わなくてははいけません。あれは間接統治を決めたアメリカ進駐軍の占領政策基本法であると、憲法学者は一番良く知っているはずなのです。それは言わないことになつてしまつた訳です。ですから大学の憲法の先生というのは、それで飯を食つていますから、今の憲法は憲法だと云つて居るのは、当り前の話なのです。

本当の憲法的なことを云つて居る人は、大学に關係の無い憲法学者、或いはごく特殊な特別の二、三人の憲法学者にすぎません。本當のことを云えば自分達の飯の食い上げみだいになつてしまふ訳です。

### サンフランシスコ条約

軍事はアメリカが握つて居ると同じでしたから、二十五年から五十年は占領が続くで有ろうと言われていたのです。

ところが私が大学2年生の時に朝鮮戦争が始まつたのです。そうした途端にアメリカも正気に還つたというか、当り前の事を言い出したのです。

日本はそんなに悪い国じゃ無かつた。と云うことで、いきなり講和条約をしましよ

うということなつたのです。

朝鮮戦争が始まると、その年の内に講和条約の話が進んで、翌年にはサンフランシスコ条約が成立しているのです。あれは朝鮮戦争が無ければ、本當に何十年間占領されていたかどうか分からないのです。ですから私は、朝鮮戦争は、あれは神風だつたと思つておられます。あれで景気が良くなつて神風だと言つた人もいますが、景気が良くなつたのも神風ですが、連合国が日本に對する見方を変えて、平和条約を結んだ、これは大きいですよ。

それでサンフランシスコ条約を見ますと、日本を敵視したり、憎んだりする様な項目は無いのです。それはポツダム宣言に基づいて千島とか、朝鮮とかを放棄するのは當然としても、友好的な言葉に満ちて居るのです。あのサンフランシスコ条約は、

朝鮮戦争を体験したマッカーサーが、トルーマンと意見が違ひまして、アメリカに呼び戻されるのです。そしてアメリカの上院で聖書に手を置いて署名をすることが起るので。その時彼は何を言つたのかと申しますと、一番重要なことは、日本には近代産業を支えるものは、蚕しかなかった。即ち、絹工業しかなかった。その他全てのモノ、石油でも、鉄でもゴムでも何でも東

南アジアには有つた。

それを我々は売らないことにしたので有る。日本は一〇〇〇万人ないし、一二〇〇

万ないし、一二〇〇

万人の失業が突然起こる恐怖にかられた。従って、日本が戦争に突入したのは、主として自衛の為で有ると証言したのです。

非常に重要なことなのです。この英文を日本に紹介したのは、私が初めてだと思えます。そして私の学生達には、ここだけは暗記するようにと言っております。

マッカーサーは戦争に入った目的は、安全保障の為に主として余儀なくさせられたと言ったのです。マッカーサーは東京裁判そのものです。連合国はマッカーサーに全部預けた訳です。東京裁判の全てを。ですから、マッカーサーは東京裁判を国際法によらず、マッカーサーチャーターというのをわざわざ決めて裁いたのです。

アメリカの上院の軍事外交合同委員会という、アメリカの全体を決める一番重要な会議で、宣誓して言っているのです。これは昭和二十七年です。

こんなのを、当時の日本人が知ったらどんなに喜んだ事でしょう。俺達の戦争は自衛戦だ。敵の大將が認めてくれたぞと、どんなに嬉しかったでしょう。これは秘密のことでは無いのです。アメリカのニューヨークタイムズにも全文が出ています。それを朝日新聞は紹介しました。マッカーサーが署名していることを。しかし、今、私が言ったところは省いている。一番日本人の聞きたいところを朝日新聞は省いていますが、そのことは、朝日新聞の縮刷版が

有りますからそれを見れば分かります。それからというもの、日本のマスコミでそれが出たことは、一度も有りません。

日本は東京裁判に縛られている。何の為にサンフランシスコ条約ですか。サンフランシスコ条約は東京裁判をバーにした様なものです。只、サンフランシスコ条約の十

一条には、日本政府は、東京裁判及び軍事裁判のジャッジメントをアクセプトして受け入れて、これを実行すると書いて有るのです。そのジャッジメントを外務省は、裁判と訳したのです。裁判を日本が遂行する訳にはいかない。そんなものに気がつかないで裁判と訳しているのです。判決ですよ。判決はもうしようがないです。日本は負けたのですから。

東京裁判で死刑になった人は七人おりますが、あの七人の内の一人として裁判を認めた人はいないのです。皆、不当な裁判だと思っている。しかし、判決はしかたがない。捕まっているのですから。死刑にされました。そして十一条は、あれはあくまでも判決なのです。ですから判決を最後まで本にやらせてくれと、終身刑の人は終身を半分にしてくれと。但し、十一条の後半に書いて有ります。関係した国と話し合いがつけば、それは刑期を変えてもよろしいと、ということでは日本政府は直ちに交渉を始めまして、全員無罪になりました。日本では戦犯はいないことになったのです。

### 我が国の外交問題

今、外交問題で一番安倍さんを苦しめているのは何かと言えば、これは従軍慰安婦問題と南京三十万人虐殺問題です。

ニューヨークタイムズは朝日新聞と同じ建物に入っているのです。日本のことはどうするかというと、同じ建物にいる朝日新聞の連中から話を聞いて、ニューヨークタイムズの日本記事が出来ている訳です。ですから、ニューヨークタイムズの日本記事は、朝日新聞の如く反日です。世界の新聞の多くは、ニューヨークタイムズの影響を受けるのです。ですから依然として従軍慰安婦問題は、全然消えていないのです。

それから南京三十万人、そんなものとはつくに否定されています。それは南京学会というのが日本に有りまして、本当に緻密に研究したのです。そして南京虐殺に関係が有ると思つた写真は、全部本当では無いことを証明したのです。

それから一番重要なことは、日本と戦っていた国民政府。蒋介石の政府。

これは、台湾にいる訳ですが、その台湾の政府が五十年経つたか六十年経つたかというところで、当時の資料を見られるようになったのです。それは、虐殺行為を介した人間は、一人残らず白人で、しかも南京政府から金を貰っていたことが間違いなく分つ

てきたわけです。

それからもつと面白いのは、蒋介石、当時の敵の大將です。これが当時、その前後三百回近く外人記者と会っていました。そして、その資料が台湾に残っているのです。その資料の中で外人記者との話し合いの中で、一度も虐殺の話は出てこない。という様なことで、従軍慰安婦問題も南京問題もあの様なことは全然問題では無いのです。国内では、もう誰も南京虐殺を言う人はいなくなりました。全部消しました。論争で。一人もおりません。

しかし、外国では違うのです。外国ではアメリカの新聞とか何かを通じて、広まったままなのです。それに対して今迄日本政府は何をやったか、何もやらない。大体外務省が、日本政府は東京裁判で縛られ続けていると、言っているのですよ。外務省の主流が。ペコペコするのが当たり前じゃないですか。それは中曽根内閣の時です。

村山首相の談話、河野洋平の談話、変えようと思つても変えられないのです。安倍さんは。私は個人的に安倍さんを割と良く知っていますが、絶対、あんなものは認めて



いないのです。しかし、継承すると言わざるを得ない。なんとすれば、アメリカの意思だからです。

サキ報道官が、世界に向かって安倍総理に継承してもらいたいと言っているのです。安倍さんとしてみれば、馬鹿なことを言うなど、言いたいところですからけれども、何しろ中国との対立が有ります。そして今のところ、どの位の効き目があるかは別として、アメリカの核の傘が無ければ、中国と対抗は出来ないのです。軍事が押さえられた、軍人の独立無くして、独立国は無いです。日本の軍事はまだ独立してはいないので

です。ですから私は、中国、朝鮮、韓国、ロシアに対しては、決して甘い考えを持ってはいけないと思います。あの人は何千年も恨みを忘れないという伝統を持っているのです。仲良くしている時は、それを隠していますよ。しかし少し自分が有利だとすると、恨みを出すのです。

ですから平和というのは、戦争が起きない状態と、戦争を起させない状態だというのが、本当の平和なのですね。安倍さんは非常にくやしい思いをしながアメリカの言うことを聞いている。そうしなければ、今の日本の防衛は成り立たないからです。憲法と称するものの、改正すら未だできていないのですから。

### 日本人の誇り

日本人の誇りはどこに有るかとなると、今の所は歴史。はかないようにも見えますけれど日本みたいな国は世界に有りません。ということは、はっきりと言えるのです。

それは例えば、去年は高松宮様の娘さんと、千家の方と結婚なさいました。これは良く知られている様に、系図からいえば、天照大神のご長男の子孫が、神武天皇から高松宮家まで続いている訳です。天照大神のご次男のお子さんの子孫が、出雲の国造(こくぞう)になつております。神代(かみよ)の話から、ずっと続いています。そのような国は無いのです。話しとして続いているだけではなく、全部系図も続いています。文字で続いているだけではないのです。伊勢神宮も有れば、出雲大社も続いているのです。出雲大社は、神話の時代の物語として古事記に書いてあります。大体、三千年前の話が、物語としてずっと続いている、こういう国は無いのです。日本だけです。神話の頃と王朝と、今の王朝が同じなのは、これが一つですね、日本人の誇りとして。

それから日本人の誇りとして、やはり明治以来の日本。日露戦争を見て下さい。あれはコロンブス以来、初めて白色人種を破つた有色人種です。それからガンジーでも、

誰もが奮い立つたのです。奮い立つたけれども出来なかった。それを大東亜戦争なつてから、ようやく各国が独立させるところまでもつていったのは、日本人の血と涙と汗だけです。

昭和十八年の秋に、大東亜会議というのが有りました。アジアにおける最初のサミットです。日本、タイ、満州、フィリピン、ビルマの国々が参加しました。各国が、独立と、仲良くしようと言っています。只、これは、戦後は絶対にアメリカ軍は言わせませんでした。

これ程立派なことが、あの大戦の中に言われているのです。日本は残念ながら負けました。ですが、二十世紀の初めは人種差別が当り前の時代でした。むしろ、人種差別が美德の時代で有りました。

その時に二十世紀の初めに日本はロシアを破つて、最強の陸軍を破つて、二番目位の大きな海運国を破つて、そして志の有る人達に火をつけました。しかしまだ燃え上がらない。

それから半世紀経つて、大東亜戦争をやリ、それが完全に独立をもたらし、どんどん波及してインドの独立、アフリカの独立までいつて、二十世紀の終わり頃には、国といえるかというつまらない国と、大きな国とが国連でほとんど平等になつた訳です。

これは、全部日本人の力だと言つても良

いのです。そう教えても良いのです。

それから軍事的にいつても、私は敗戦の最後の半年、あれはギリギリ一年、これは残念でしたけれども、勝つ術(すべ)は有つたということ、始めの内は幾らでも勝ち筋も有つたということ、我々は子供に教えずにはいけない。情けなく負けたわけではない、一寸まずくやらなければ勝つたのです。少なくともドローゲームにいた苦なのです。ところが、2年、3年すると、もう石油が無くなって、急に駄目になつただけであつて、しかも日本はイギリス、アメリカ、オランダそれから中国、ソ連と全部敵にしたのだから負けたのだつて当り前なのです。一対一ならアメリカにだって負けなかつた、という位の事は子供にも教えてやる。我々、日本人のプライド。歴史に対するプライドです。しかも近代においても、これだけの貢献を成しているということ。

そして、戦後ですら、何も無い日本が、全部剥ぎ取られた日本が、わずか短期間で一人当りのGDPが、アメリカを超えたことを世界に示したと。これは発展途上国にどの位な刺激になつているか、これを我々は、子供に教えたいと思うのです。

今日は長い間ご清聴有難うございました。



組合員だより



代表者変更

富士馬鋼業株式会社

新代表者 宮川 栄一

計報

桑原 久直様

株式会社文化精工 代表取締役社長 桑原 秀樹氏のご尊父 同社取締役会長 桑原久直様はご逝去されました。

謹んでご報告申し上げますと共にご冥福をお祈り致します。

松原 清一様

株式会社松原製作所 代表取締役 松原一喜氏のご尊父 松原清一様はご逝去されました。

謹んでご報告申し上げますと共にご冥福をお祈り致します。

大谷 静枝様

株式会社大谷造機所 代表取締役大谷文雄氏との奥様 大谷静枝様はご逝去されました。

謹んでご報告申し上げますと共にご冥福をお祈り致します。

業務報告

一月八日

1 新春講演会

講師 上智大学名誉教授 渡部 昇一氏

テーマ 日本人としての誇り

2 新春賀詞交歓会

四月三日

ものづくり補助金説明会

講師 中小企業診断士 小泉 誠二先生

四月二十日

常任理事会

1 平成二十六年事業報告・決算報告・剰余金処分案承認の件

全員異議なく承認

2 平成二十七年事業計画案・収支予算案承認の件

全員異議なく承認

3 平成二十七年借入最高限度額決定の件

一 組合員に対する貸付最高限度額決定の件

手数料最高限度額決定の件

全員異議なく承認

4 役員報酬決定の件

全員異議なく承認

四月二十日

理事会

議題は常任理事会上程のもの

全員異議なくこれを承認

五月七日

常任理事会

1 一階廊下漏水による補修工事の件

2 組合に加入する際の規定の件

3 平成二十六年度の事業収益の部と事業外収益の部の変更事項の件

全員異議なくこれを承認

五月十九日

1 平成二十七年通常総会

可決事項全員異議なく諒承

2 講演会

講師 東北大学名誉教授 文学博士 田中英道氏

テーマ 日本神教とイスラム教

3 懇談懇親会

九月十日

常任理事会

1 賀詞交歓会の件

2 工業蒲田の件

全員異議なく承認

十月二十三日

ワインの会

講師 ワインエキスパート 岩崎登喜雄氏

十一月二日

蒲田工業協同組合OB会

会場 福寿司

十一月十日

常任理事会

1 組合総会の日時及び講師の件

全員異議なく承認



年末・年始事務取扱のお知らせ

年末・年始の組合事務局の事務取扱日は左記の通りとさせていただきます。

記

年末 十二月二十八日(月)まで

年始 一月五日(火)から



### 木鶏会々長ご挨拶



会長  
高原 隆一

あけましておめでとございます。

皆様には、お健やかに新年を迎えられたことと謹んでお慶び申し上げます。

昨年は世界各地で起こるテロ行為など、世界情勢が不安定な出来事が目立つ年でした。一方、国産初の小型ジェット機が初飛行に成功するなど、日本の技術力を益々世界中に広めてくれるだろうと期待しています。

また国内の航空機産業の発展にも、新たな時代の幕開けになってほしいと願っています。

さて、木鶏会においては勉強会「定例経営サロン」を開催していますが、会員相互のコミュニケーションをはかると共に、正しい知識を身につけて経営判断に役立ててほしいと思います。

円安が追い風となり、大手メーカーをはじめとする製造業の国内生産へのシフトなどから、国内回帰の兆しも見えています。海外への設備投資は続くものと思われず。それではこの先、円安が続かなくなった場合に国内回帰を継続していくには、どうすれば

は良いのでしょうか。

私は、国内での製造技術の充実・高度化を狙って、差別化を行うことが重要だろうと考えています。そして、海外からの安価な製品などと競合する大田区工業につきましても、効率よく且つ正確に自らの事業を研究する姿勢は同じであると思います。

このため当会としましては、これからも大田区工業の活性化のために、経営サロンでの意見交換をはじめ、専門家による必要な情報サービスの提供及び大田区工業の実態調査を、積極的に実践して行きたいと考えております。

本年も皆様からのご支援、ご指導を何卒宜しくお願い致します。

### 木鶏会の活動

二月十日

正副会長会議及び定例経営サロン  
1 平成二十六年決算報告について  
平成二十七年予算案について  
全員異議なくこれを諒承

三月十日

2 定例サロン 望月氏担当  
1 木鶏会通常総会

2 講演会  
講師 外交評論家 加瀬英明氏

テーマ 徳の国富論

3 懇談懇親会

四月十四日

定例経営サロン 高原会長担当

四月十五日

大田工連青年部連絡協議会 総会

五月十二日

定例経営サロン 師岡 正雄氏担当

五月三十日

懇親ゴルフ会開催

六月九日

場 所 木更津ゴルフクラブ

定例経営サロン 海老名 伸哉 氏担当

六月二十六・二十七日

工場見学  
場 所 (株)平垣製作所 静岡市清水区



工場見学

七月十一・十二日

大田工連青年部連絡協議会引継ぎ研修会  
場 所 鬼怒川

七月十四日

納涼サロン

会 場 タテル ヨシノ ビズ

八月二十二日

大田工連青年部連絡協議会納涼会

九月十日

定例経営サロン

講師 愛知淑徳大学 真田幸光 教授

テーマ 世界秩序の変化の兆しと日本

十月十三日

定例経営サロン 小林理事長 担当

十月十八日～二十一日

大田工連青年部連絡協議会 海外視察会

場 所 台湾 工業展示会視察及び商談会

十一月七日・ 八日

大田工連青年部連絡協議会大田フェスタ

十一月十日

定例経営サロン 小柳 優氏担当

十二月八日

忘年会  
会 場 MARU



木鶏会忘年会



謹んで新年のご挨拶を申し上げます

蒲田工業協同組合

(五十音順)

尼寺空圧工業株式会社

尼 寺 実

株式会社新井久四郎鉄工所

新 井 陽 一

イーター電機工業株式会社

山 本 浩 之

有限会社梅津精機製作所

遠 藤 浩 樹

株式会社エヌエスシー

村 岡 純 一

株式会社NCネットワーク

内 原 康 雄

株式会社エフエス

古 岡 正 之

荏原工業株式会社

長 井 俊 樹

エビナ電化工業株式会社

海 老 名 伸 哉

株式会社大谷造機所

大 谷 文 雄

岡田钣金株式会社

増 田 道 造

金勝産業株式会社

金 勝 恒 男

有限会社川村製作所

川 村 有 史

株式会社気球製作所

豊 間 清

株式会社極東精機製作所

鈴 木 健 一

有限会社京浜プレス工業所

斎 藤 喜 久 雄

株式会社弘機商会

高 原 隆 一

株式会社浩伸技研

森 田 淳 士

佐々木発條株式会社

佐 々 木 毅 彦

産業医・医学博士

佐 藤 精 一

株式会社三栄精機工業

今 田 悠

株式会社三協アルマイト

岩 崎 登 喜 雄

株式会社志村精機製作所

志 村 政 彦

第一金属工業株式会社

菅 谷 義 弘

大産工業株式会社

千 葉 泰 常

大志工業株式会社

沖 山 裕 夫

謹 賀 新 年

蒲田工業協同組合

(五十音順)

顧問 西ヶ谷 勝美

相談役 大谷 文雄

理事長 小林 章彦

副理事長 田村 知之

副理事長 望月 直人

専務理事 長井 俊樹

相談役・理事 増田 道造

相談役・理事 荻野 茂

常任理事 飯室 肇

常任理事 高原 隆一

理事 岩崎 登喜雄

理事 加藤 進弘

理事 斎藤 喜久雄

理事 菅谷 義弘

理事 鈴木 健一

理事 竹内 榮多

理事 鳥海 保男

理事 野口 広

理事 宮澤 章

監事 佐々木 毅彦

監事 森田 淳士

事務局長 沢登 正彰

謹んで新年のご挨拶を申し上げます



蒲田工業協同組合

(五十音順)

大進精機株式会社

宮田正広

大成工業株式会社

鎮目哲郎

株式会社瀧口製作所

古田茂樹

株式会社タムラエンジニア

田村知之

株式会社タンケンシーラセーコウ

山内祐二

ティヴィバルブ株式会社

竹内榮多

株式会社寺岡精工

寺岡和治

東亜株式会社

小柳優

株式会社東京精密器具製作所

西ヶ谷邦夫

株式会社東京ハードフェイシング

吉田裕二

同和発條株式会社

川嶋治彦

有限会社巴精工所

武市孝雄

株式会社鳥海製作所

鳥海哲司

株式会社中谷機械製作所

中谷和彦

永森電機株式会社

永森忠臣

南旺工業株式会社

林隆史

株式会社日産電機

中村國男

株式会社日章機械

小林章彦

日新電気株式会社

奥山利行

日本チエン・ギヤー

無段変速機株式会社

加藤進弘

株式会社羽田パイプ製造所

野口広

有限会社早崎製作所

早崎吉春

深尾精機株式会社

中井富士夫

有限会社富士精機製作所

荻野茂

株式会社富士テクノマシン

飯室肇

富士馬鋼業株式会社

宮川栄一

株式会社藤原製作所

藤原康明

株式会社文化精工

桑原秀樹

細田工業株式会社

細田俊男

株式会社マコメ研究所

沖村文彦

株式会社マサオプレス

宮澤章

有限会社松原精機製作所

松原栄一

株式会社松原製作所

松原一喜

丸中金属有限公司

八巻孝之

三津浜工業株式会社

富岡恵子

有限会社望月塗工研究所

望月直人

有限会社師岡鋳金製作所

師岡正雄



HACCP 高度化基準認定工場

となんのお料理をどうぞ

都南工業給食協同組合

大田区南六郷三ー十五ー一

TEL 三七三二ー七四五一 (代)